

パペットで被災地に元気

東日本大震災の被災地をパペット(腹話術人形)の力で元気づけようと、腹話術師約20人が29日、巨理町荒浜の災害公営住宅など県内10会場でパペットショーを開く。パフオーマンスを披露する仙台市青葉区の歯科医、千葉俊一さん(67)は「見に来てくれる人に笑いと癒やしを届けたい」と意気込む。

きょう10会場 腹話術師20人がショー

そんな千葉さんがパペットによるセラピー効果を実感したのは、震災から3カ月後、津波で被災した山元町の小学校へボランティアで公演に行った時だった。千葉さんと同行していたセラピストがパペットを通じて「津波は怖かった?」と問いかけると、あまり津波の体験を話さなかった子供がパペットに向かって当時の様子を詳しく語ったという。「パペットは人の気持ちを引き出すことができる。感情を表に出すことは心の癒やしにつながっていく」と千葉さんは分析する。



腹話術を披露する千葉俊一さん＝千葉さん提供

また、震災を風化させずに語り継いでもらおうと、震災を題材にした腹話術にも力を入れていく。千葉さんは震災で亡くなった男の子と、その母親のやり取りを腹話術で表現。「被災地に目を向けてくれるきっかけになれば」と、県外から訪れた人たちの前で披露している。【本橋敦子】

てきた。
ショーは、パペットによる心理療法を研究する日本パペットセラピー学会(東京)が主催。全国から集まった腹話術師らが公演する。千葉さんは「震災からの復興は進んだが、大切な人を亡くした人の心は取り残されている。腹話術で届ける笑いが、幸せを求める力になったらうれしい」と話している。